中国防損協会と初会合

アジア最大の見本市で
EAS、RFID等も視察

ＪＥＡＳ（日本万引防止システム協会）

日本万引防止システム協会（東京都新宿区、稲本義範会長、以下、ＪＥＡＳ）のメンバー８人は、11月上旬に中国を視察。中国防損協会（CCFA's Assets Protection & Internal Committee）と初会合を開催した。そして、アジア最大の見本市である「Ｃｈｉｎａ Ｓｈｏｐ」の視察、青島市内のモールやスーパーの見学を行い、ＥＡＳやＲＦＩＤ等の状況を確認した。

ＪＥＡＳと中国防損協会との初会合では、中国防損協会からＥＣ、小売、スーパーなどに携わるメンバーが参加して、中国での取り組みを説明。20年前には主に事後対応だったが、その後、事前対応、専門組織による対応、防犯活動などに取り組みを拡げ、現在は内部統制を含む形で、包括的なリスク管理を管轄していることなどが紹介された。ＪＥＡＳからは、リード・ヘイズ教授からの「今回の日中のＬＰ（ロスプリベンション）会議が大成するように」との思いが記されたメール内容を披露。併せて、ヘイズ教授のＬＰ（ロスプリベンション）本が日本語で出版されていることなどが説明され、中国防損協会からは中国語版を要望する声があった。

初会合を記念して、中国防損協会が作成したＬＰマニュアルが、日本ＬＰ教育制度作成委員会とＪＥＡＳに提供された。そして、中国防損協会は、来年７月に開催する総会に、ＪＥＡＳを招聘した。

「Ｃｈｉｎａ Ｓｈｏｐ」では、ＥＡＳやＲＦＩＤの出展企業などを視察。その後、青島市内の商業施設を見学した。